

東北大学
知的財産シンポジウム2026
～オープン&クローズ/標準化戦略の事業構想～

プログラム >>

14:00 開会挨拶

遠山毅 | 東北大学 産学連携機構長

14:05 基調講演

「最近の標準政策の動向について」

小太刀 慶明氏 | 経済産業省 イノベーション・環境局 国際電気標準課長

14:20 講演 1

「標準化とオープン戦略の最新動向/攻めのオープンな知財戦略」

林 カー氏 | 株式会社野村総合研究所 コンサルティング事業本部 シニアプリンシパル

14:50 (休憩)

15:00 講演 2

「国際標準化のビジネス活用の最前線」

福山 草子氏 | 株式会社オウルズコンサルティンググループ チーフ通商アナリスト

15:20 講演 3

「ものづくりの現場における先端研究を活用した知財・論文戦略」

伊藤 恵利氏 | 株式会社メニコン サステナビリティ戦略室共創戦略部 部長
・東北大学 (グリーンクロステック研究センター) 特任教授

15:40 講演 4

「事業構想を共有する研究段階からのオープン&クローズ戦略への挑戦」

大原 慶久氏 | 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター スペシャリスト

16:00 (休憩)

16:10 パネルディスカッション

「知財部門による事業構想：オープン&クローズ/標準化戦略の考え方・作り方」

モデレータ 戸次 (べっき) 一夫 | 東北大学産学連携機構・法学研究科 特任教授(研究)

パネリスト 各講演者、オブザーバ 小太刀 慶明氏

16:55 閉会

* 司会進行 飯野 由里江 | 東北大学産学連携機構 特任教授

主催 東北大学 多元物質科学研究所/産学連携機構

2026年2月6日 金曜日 14時～17時
WEBオンライン開催

近年、日本では研究開発には成功し当初の技術優位性を確保しているものの、それが市場拡大時の継続的なビジネスの優位性の維持に十分利用できていないとの指摘があります。海外の高収益企業の成功例をみると、技術コアを独占すると共に、製品化やサービス提供までのバリューチェーンを「標準化」を介して開放し、多くの企業とエコシステムを形成する「オープン&クローズ戦略(コア技術をクローズ領域で守りつつ、その他技術や知見をオープン化して市場を形成する戦略)」を、意図して、もしくは、戦略選択の結果として取っている企業が多くあります。

本シンポジウムでは、産学連携研究開発において、標準化・知財を含む「オープン&クローズ戦略」を国際的視点から深掘りし、枠組みや事例を共有、国内外の研究開発・標準化・知財・産学連携の成功要因や課題を議論し、今後の実践(企業・大学・研究機関)につなげます。

事務局》》東北大学多元物質科学研究所 本間、産学連携機構 浅井 飯野

* お問合せは右記 Web サイトに記載の問合せフォームよりご連絡下さい

》》詳しい講演内容と講演者プロフィールは裏面をご覧ください

本シンポジウムは、令和7年度経済産業省委託事業「基盤的共同研究開発に関するオープン&クローズ戦略策定の推進・体制整備強化に向けた実証調査事業」の一環として開催しております

申込方法》》

参加費無料 | 申込順 300 名

知的財産、オープン&クローズ戦略
や標準化にご興味のある方なら どの
たでもご参加いただけます

東北大学産学連携機構Web サイト

[https:// www.rpip.tohoku.ac.jp](https://www.rpip.tohoku.ac.jp)

または2次元コードより

お申込み下さい



東北大学知的財産シンポジウム2026

～オープン&クローズ/標準化戦略の事業構想～

2026年2月6日 金曜日 14時～17時 | Zoomウェビナー オンライン開催

講演内容と講演者プロフィール

基調講演 「最近の標準政策の動向について」

2025年は内閣府の「新たな国際標準戦略」、経済産業省の「日本型標準加速化モデル2025」と標準化に関する国家的な戦略が相次いで打ち出される節目の年となった。本講演では標準化と知的財産の一体的活用を含めた最近の標準化政策の動向について解説する。

小太刀 慶明氏 | 経済産業省 イノベーション・環境局 国際電気標準課長

平成11年4月、経済産業省特許庁入庁。特許審査官として情報・通信技術の特許審査に従事する傍ら、審査システムの企画、特許審査に関する海外知的財産庁との協力等を担当。平成27年1月に審判官に昇任後もインド、ブラジル等との特許審査迅速化の協力プログラム実施、拡充に向けた交渉等にあたり、平成30年6月からの3年間はジェトロ・デュッセルドルフ事務所にて現地知的財産情報の調査活動を行いつつ在欧日系企業を支援。令和6年7月より経済産業省国際電気標準課長として、電気・電子分野やAI、量子技術等の情報分野を中心とした国際標準化、アカデミア人材の標準化活動への参画等の標準化施策を推進。

講演1 「標準化とオープン戦略の最新動向/攻めのオープンな知財戦略」

知財を「独占」から「顧客獲得」へ。本講演では、知財をあえてオープンにし標準化することで、市場での認知と信頼を獲得する「攻めのオープン戦略」の最新動向を解説します。成功事例は創発的か、当初から意図的に設計されたものか。オープン戦略の策定手順を明らかにし、中核事業とソリューション事業における標準必須特許(SEP)の経営戦略的意味の違いを解説。クローズ戦略(収益源の保護)とオープン戦略(顧客接点の拡大)を戦略的に使い分け、複合事業化を通じて企業価値を最大化する実践的アプローチをご紹介します。

林 カー氏 | 株式会社野村総合研究所 コンサルティング事業本部 シニアプリンシパル

野村総合研究所(NRI)にて、製造業・重工業をはじめとする企業の戦略的事業開発・知財戦略・M&A支援等のコンサルティング業務に従事。日立製作所、トヨタ自動車、三菱重工業、LIXILにおいてグローバル知財部長を歴任し、外資系戦略コンサルティングファームでの経験も有するなど、事業会社とコンサルティング双方の現場で豊富な実践経験を積む。幅広い業界の経営課題に対して、知的財産を経営価値と結びつける戦略立案や実行支援に取り組んでおり、企業の中長期成長やエコシステム構築といったテーマに精通。講演・執筆活動も多数行う。工学修士・MBA・法学士の学位を有し、弁理士としての専門性も併せ持つなど、技術・経営・法務に横断的な知見を活かした戦略コンサルティングを展開している。

講演2 「国際標準化のビジネス活用の最前線」

日本企業が「技術で勝る」だけでは競争優位を確保できなくなった現在、国際標準化を通じたルール形成は市場拡大や市場創出のための重要な経営課題となっている。国際標準化やルール形成のビジネス活用の最新動向を解説する。

福山 章子氏 | 株式会社オウルズコンサルティンググループ チーフ通商アナリスト

経済産業省、デロイトトーマツ コンサルティングを経て現職。経済産業省在籍中は、基準認証ユニット認証課(当時)、通商機構部、通商政策局アジア大洋州課、)等でルール形成・国際案件に従事。著書に『ビジネスと地政学・経済安全保障』『稼げる FTA大全』(共著:日経BP社)『変質するグローバル化と世界経済秩序の行方』(文真堂)がある他、知財管理『国際標準の戦略的活用に向けた知財部門の行動変容について』等、ルール形成・国際関連の寄稿・講演多数。通関士有資格者。国際貿易投資研究所(ITI)客員研究員、米国研究会委員、EUデジタル研究会委員。

講演3 「ものづくりの現場における先端研究を活用した知財・論文戦略」

企業が先端研究に取り組み、生み出すべきアウトプットは何か?特許・論文、いずれの答えも間違っていない。しかしながら、その発信に戦略が無いとき、単なる自己満足であり、更には製品戦略にリスクをもたらす。グローバルなガリバー企業と戦うドメスティック企業として、この知財・論文戦略に見出した勝機を紹介する。

伊藤 恵利氏 | 株式会社メニコン サステナビリティ戦略室共創戦略部 部長・東北大学(グリーンクロステック研究センター) 特任教授

伊藤 恵利氏は、博士(工学)を有し、長年にわたりコンタクトレンズの研究開発に従事するとともに、企業の共創戦略・産学連携の推進を担うリーダーとして活躍している。株式会社メニコンでは共創戦略部 部長として、次世代材料・技術の創出と産学共同研究の推進に取り組むほか、東北大学グリーン未来創造成構 特任教授として教育・研究面での連携を進めている。また、東北大学との「みる未来のための共創研究所」所長として運営総括責任者を務め、業界の技術革新と持続可能なものづくりに貢献している。講演・学術発表や産業界との連携活動も多数行い、材料科学・量子ビーム解析分野での知見を広く発信している。

講演4 「事業構想を共有する研究段階からのオープン&クローズ戦略への挑戦」

循環型経済が進展し、単独の製品や事業だけでは価値創出が難しい今、研究初期段階から産学で「事業構想」を共有することが不可欠です。市場を拓くオープン戦略と収益を守るクローズ戦略を、研究者の熱意といかに織り込むか。現場の試行錯誤から見えた、大学への期待と新たな連携の知見を解説します。

大原 慶久氏 | 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター スペシャリスト

大原慶久氏は、民間企業でヒューマノイドロボット開発、ヒューマン-ロボットインタラクションの研究に携わり、2020年から日本総合研究所の創発戦略センターにおいて、スペシャリストとして活動しています。現在は、ソフトウェアシステム分野、エネルギー分野を中心に、EV車載蓄電池のリユース・リサイクル、過疎地域での持続的な交通・エネルギー事業、AI/IoT/ロボットなどを活用したシステム構想・事業開発に従事しています。